

京都ボランティア協会2017年度事業報告

目次:

<事業>

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1 【ボランティアコーディネート事業】 | …2ページ |
| 2 【援助・交流事業】 | …4ページ |
| 3 【広報事業】 | …6ページ |
| 4 【研修事業】 | …7ページ |
| 5 【研究事業】 | …9ページ |
| 6 【地域における社会福祉の推進事業】 | …10ページ |
| 7 【評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】 | …10ページ |
| 8 【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】 | …11ページ |

<組織・運営>

- | | |
|---------------|--------|
| 1 【組織・運営体制整備】 | …11ページ |
|---------------|--------|

<事業>

【1. ボランティアコーディネート事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
ボランティアコーディネートの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の啓発と推進。 ・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流、ひいては社会貢献。 ・ボランティア登録者継続と増加を推進。特に在宅生活者の依頼に応える、寄り添うボランティアの増加をはかる。 ・相談業務等から見える生活・福祉ニーズの把握と分析。 ・地域資源の把握(新たなボランティア活動先、受入先の開拓など) 	<p>①ボランティア相談(ボランティア活動希望者およびボランティア依頼者からの相談)を行う。</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等を実施する。</p>	<p>①ボランティア相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア相談の実施→107件(前年度99件) ・ボランティアしたい相談→47件 <ul style="list-style-type: none"> ※内新規登録者9人 なお、ボランティア登録者数→75人(前年度、ボランティアしたい相談30件 ※内新規登録者10人。なお、ボランティア登録者数→66人) ・ボランティアほしい相談→60件(前年度69件) <p>相談の内、ボランティア紹介数は31件(前年度33件)、内他団体紹介し完結した相談は13件(前年度14件)</p> <p>今年度は、地域資源を活用でき、少人数で相談業務にあたる時、更なる地域資源の活用が必要になると思われる。</p> <p>【別添資料1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ②ボランティア学習会・研修会等の実施 ・前期・後期に分け各6回シリーズの講座を実施「心の栄養支援」講座 ・「心の栄養支援ボランティア養成講座」 介護予防・障害支援シリーズ 実施 <p>③京都市介護予防・日常生活支援総合事業の検討</p>	<p><ボランティア登録者増></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規相談者に対し登録まで結びられるよう相談後の状況をこまめにフォローしていく必要がある。 <p>・ねこのてさろん等と合同で講座などを開催し、身近なボランティア活動を紹介し、登録者増に繋げていきたい。</p> <p>・すこしプラスがある、学びや出会いがあるというお得意のある講座や遊びの部分のある気軽さ、知り合いを増やしていく機会のあるものを開催していく。</p> <p>・京都市の支え合い型ヘルプサービス(緩和した基準によるサービス)の実施について検討したが、「隣近所の助け合い活動」に対する助成事業であり、当協会の活動趣旨とは異なるため、理事会にて協議の結果、申請せず。</p>
在宅でのボランティア活動		<p>③介護保険改正に伴う対応策(京都市介護予防・日常生活支援総合事業)を検討する。</p>		

グループ活動(協会内外)

通年・継続

④ボランティア登録者の増員と交流を図る。

④ボランティア登録者の増員と交流
・ねこのてさろんにより、会員・登録Vとの交流を実施→交流は図れたが、登録者の増員にはなかなか結びつかない。参加者集め、新たなメンバー定着は今後も課題である。

・ボランティア登録会、あるいは相談会の開催。活動により「人と会う楽しさ」をボランティア依頼者や活動するボランティアの生の声を届ける機会を増やす。その場合の活動分野などは考察の必要あり。
・ボランティア活動継続後の連絡等密にし活動者の声を発信する機会を増やしていく。ボランティア活動希望者(登録者)同士の交流機会をつくり、仲間づくりや支え合う機会づくりについて考える。

⑤ボランティアコーディネーター事業体制の整備

⑤ボランティアコーディネーター事業体制の整備
・2016年度末は3人の事務局員(パートを含む)が他業務を兼任して担当していたが、パート職員の退職により、2017年度末は2人の職員が他業務を兼務して担当している。

〈ボランティア依頼者増〉
・高齢者や障がい者のボランティア依頼が多い。この状況を踏まえ対応すべきと考えるが、現状を知ることから始めていきたい。

・ボランティアをされた方の意見をこまめに聞くことにより状況把握に努める。

※ボランティア登録者増とボランティア依頼者増は不離一体のものであり、双方の上記改善策に取り組んでいく必要がある。

・2016年度末は(パート職員1人を含む)事務局員3人で兼務していたが、現在は2人で兼務し対応しており、対策が必要と思われる。

・障害者自立支援法の居宅サービスと通所サービスの一体的な提供も可能になったためか、この件に関する継続的な依頼が減少している。

・介護保険法改正に伴う「京都市支え合い型ヘルプサービス」については、「隣近所の助け合いに対するの助成事業」であり、当協会の活動趣旨とは異なるため申請しないこととする。

⑥福祉ボランティアセンターとの連携を図る。

⑥京都市福祉ボランティアセンターとの連携
・広報の依頼を積極的に行っている。個別のボランティア相談は6件(前年度9件)であった。

⑦「きょうボラ」を発行(年4～5回)する。

⑦「きょうボラ」発行
・「きょうボラ」年4回発行各1200枚「ボラタス」と共に発送。また講座等の機会を捉え配布している。「きょうボラ」を見られた方から直接ボランティア相談に結び付けることは難しい。他機関との協力体制が今後益々必要だと思われる。しかし地道に活動していくべきである。

	⑧大学・地域等への事業紹介等広報活動を実施する。	⑧大学・地域等への事業紹介等広報活動の実施 ・華頂女子高やワタキューは研修の機会を捉え紹介しているが活動になかなか結びつかない。発信し続けることの必要はある。なお、大学のボランティア活動の実情を把握する必要がある。	・菊浜学区の行事には積極的に参加しているが、一部の協会会員以外の方とは一朝一夕に関係は築けない。「第9回 きょうボラふれあい祭」には、地元の菊浜、崇仁(自治)、稚松、皆山連合会の後援をいただいた。
--	--------------------------	--	--

【2. 援助・交流事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>「第9回きょうボラふれあい祭」 2017.11.19開催</p> <p>通年・継続</p>	<p>・新たなボランティアスタッフの人材発掘と育成。</p> <p>・ボランティア、関係団体、企業等との交流、連携推進。</p> <p>・新たな活動の創造・発信。</p> <p>・ボランティア中心に、祭準備段階から企画・運営を参加団体と実行委員会・事務局が連携強化。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「きょうボラふれあい祭」企画内容変更、運営、作業ボランティア募集！！</p> </div>	<p>①ボランティアスタッフ等の募集と学習会を行う。</p> <p>②実行委員会(企画・運営)を設置。</p> <p>③祭のホームページを管理する。</p> <p>④バザー物品、抽選物品を確保。</p> <p>⑤広報の充実(パンフレット・ちらし他)を図る。</p>	<p>2016年度の「第9回きょうボラふれあい祭」は内容見直しのため順延となる。</p> <p>①2017年度に祭を再開し、準備委員会から始め、初回は24名の実行委員が参加した。毎年開催される祭では変化がなく、実行委員の一部の人からの変革を求められた。しかし、委員からの企画等の意見もなく、「祭」は大幅な変化は難しいという意見もあった。継続することでみんなが集まれる交流の場としての意義があり「居場所」でもある。また、高齢者や障がい者と交わる機会でもある。手作りのイベントも委員だけでは難しく、多くのボランティアと関わるには職員・ボランティアの養成も必要である。</p> <p>②実行委員会は6回開催された。</p> <p>③実行委員の広報担当者が作成した。</p> <p>④ちらし等配布(京都新聞五条販売所の折り込みと京都社会福祉事業団へ記事の掲載をした)</p> <p>⑤ボランティアが「ともちゃん」のキャラクターのポスター200枚・ちらし23,000枚を作成した。</p>	<p>11月にも係わらずグラウンドは小雪が散らつき非常に寒かった。それでも1,100人の来場者があった。アンケートより、参加団体・当日ボランティアは、「よかった」の声が多く、たくさんの方と交流ができたとの結果を得た。また市場・販売・ステージ・展示コーナーでは発表の場の提供ができた。来場数は天候に左右されるので、開催時期などは決めるのが非常に難しい。</p> <p>当日参加のボランティアには、説明会の参加を義務づけて実行委員の負担を軽減したい。</p> <p>ポスターを基盤にホームページに掲載し、集客のための広報を図った。</p> <p>多くの市民から寄付が届いた。最近ネットショップに多くの方が参加しているので高価なものが集まらない。</p> <p>参加団体等に20枚づつ配布し、集客に協力をお願いした。</p>

		⑥記録・報告書を作成する。	ボランティアの写真係を決めて、フォトストーリーを作成し、振り返りの会で発表した。	フォトストーリーは、次回のボランティア説明会(募集)に活用する。
福祉ボランティアフェスタに参加	「ひと・まち交流館 京都」開催。 当協会はボランティアビューローグラウンド1ブースに参加団体として出店。	大徳寺分室のウエスメンバーと若者ウエスのメンバーと連携で企画する。 模擬店を開店し、大好評。恒例のミニバザーも開催。	3月4日(日)は晴天で来場数も多かった。たこ飯100食や粕汁80食は早くに完売した。 出店のための打ち合わせをボランティアスタッフで数回設けた。	・協会ブースのボランティアの応援に21名参加。バザー物品もたくさん集まり、売上84千円あった。ビューローの来場数300人余り。
サロン活動(ボランティアビューロー活性化) 「ねこのてさろん」の運営	・多様な興味や関心を持つ人たちとの交流を通じた「居場所」や仲間づくり。 ・多様なメニュー企画立案作りによる人材及び団体交流。 ・お互い様精神復活。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「ねこのてさろん」企画・運営ボランティア募集！！</div>	①単発活動企画の年間計画化を図る。 ②居場所機能の活性化(メンバー募集、仲間作り等)を図る。 ③活動グループ化、自主運営化を図る。 ④新規グループ作りを図る。	・パソコン講座・英会話・囲碁・朗読・リコーダー(音楽)・ヨガ講座・油絵などサロン活動で学びと教えるという交流で仲間づくりを楽しんでいる。参加者はほぼ高齢者で毎回楽しみにされている。 ・ねこのてカフェでは料理などは人気があり、水餃子・夏カレー焼きそば(福島産)を食べよう、フライパンでパンを焼こうなどを実施。毎回カフェは10人ほど参加。 上記の「ねこのてさろん」ビューロー行事はほぼ自主運営が出来ている。参加費が安価で希望者が多い。	・高齢者の参加が目立つ。今年のはちよいボラなど社会的不安がある参加者があり、ボランティアスタッフが対応している。 ・中国他の留学生も多く参加してくれた。 ・祭実行委員の一部・ウエスメンバーが「ねこのてさろん」の職員と一緒に企画し、応援してくれている。リーダーの担い手がすくない。 ・会員がリーダーになり パソコン・囲碁や発声などでボランティアビューローを活性化している。またメンタルな若者も自主的にリコーダー(縦笛)の講師を担当。 (2017年度 かみふうせん朗読ワークショップ・リコーダー・ヨガ講座・油絵教室開講)
ウエスグループへの支援	・活動歴27年近いグループであり、協会活動の支援者である。 メンバーの高齢化により、活動の継続を目的に支援する。	①ウエス作業支援(ウエス販売含む)	月1回のウエス作業の実施。(材料不足のため、若者支援の方に優先的に材料を提供している)	・ウエス売上108千円(335kg)と前年よりやや減少した。ウエスの購入先事業所も増えているがウエスのメリヤスの材料が不足している。 ・白川学園にも衣服や雑貨等なども寄付し、月一回ウエス作業に出向いている。

<p>「おしゃべりカフェ」居場所づくり</p> <p>通年</p>	<p style="text-align: center;">通年・継続</p>	<p>②ミニバザーの実施支援</p> <p>③ウエスグループ&「おしゃべりカフェ」居場所づくりの場の充実</p> <p>④ウエスグループスタッフによる諸団体の啓発活動への参加</p>	<p>・「地域ふれあい感謝祭」京都府「あすkyoフェスタ」に参加。</p> <p>大徳寺ボランティア協会分室の前で、やすらい祭でのミニバザー開催。</p> <p>新しい企画をするには職員が関わりながら、映画鑑賞や健康体操など実践。</p> <p>ウエスメンバーの人が青少年街頭活動や共同募金会街頭活動に参加されている。</p>	<p>「あすkyoフェスタ」に参加し子供向け「Tシャツアート」を出店し、積極的に活動している。(ミニバザー売上17千円)</p> <p>・作業場所である大徳寺ボランティア協会分室ではご近所との交流もあり、やすらい祭でミニバザー開催。売上32千円あすKYOフェスタは手づくり体験で出店している。Tシャツアートの次の企画を考案中。</p> <p>・企画・提案するリーダー的な人材育成が必要である。</p> <p>協会関係者の参加募集中！助成金(京都市3千円・共同募金居場所400千円の助成金あり)</p>
-----------------------------------	--	---	---	--

【3. 広報事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題
<p>「ボランティア」他広報事業</p>	<p>・「ボランティア」「きょうボラ」他媒体による情報提供と発信。</p> <p>・ホームページにて情報の公表を行い広く市民への広報活動。</p>	<p>「ボランティア」を発行(年4～5回)する。</p> <p>「きょうボラ」を発行(年4～5回)する。</p>	<p>・ボランティアの記述するページを設け、思いやボランティアの啓発に挑戦できる機会をふやす。アンケート調査などの生の声を掲載した。</p> <p>年間4回(毎回各理事の巻頭言から始まり、主な事業のお知らせや報告など掲載。)</p> <p>・ボランティアの内容充実のため、2016年度から関係ボランティアグループの協力を得て、コラムなどグループ紹介を含め継続中である。</p> <p>・現在、広報先には新聞社は基より、主に京都新聞社会福祉事業団、京・福祉研修情報ネット事業、京都市福祉ボランティアセンター「ボランティアーズ」、誕生日ありがとう運動友の会京都(折込)ほか依頼している。</p> <p>※ 協会の行事内容が分かりやすくするために広報スケジュール欄を設けた。</p> <p>「きょうボラ」は年4回発行する。</p>

		ホームページを管理する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでは、随時更新できるように編集プログラムが組まれている。イベント・新着情報など見やすいように変更した。 ・システム管理者(会員)の設置。保守点検などもお願いしている。 ・カレンダー更新。 	<p>ホームページをみて、連絡する人が多くなった。</p> <p>祭りなどのイベントなど参加者も増加傾向にある。</p> <p>・ボランタス・ホームページに関係団体。グループとの「つながりを大切に」のページは継続中。</p>
--	--	--------------	--	--

【4. 研修事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
華頂高等学校ボランティア講座への講師派遣	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に行われているボランティア活動を学び、活動を通し気づき、共感する心の育成。 ・身近な地域での福祉活動や、高齢者・障がい者・児童領域の現状に対する障害当事者や活動団体からの学び。 ・ボランティア養成講座の継続。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">後期・継続</div>	<p>高校1年生全員90名を対象に「総合華頂探究」という総合学習の中に位置づけられている授業である。(授業は年2日間である。)</p> <p>内容は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動の基本的精神や意義、取組みや課題を学び、ボランティア活動に親しむ。 ②認知症・障害者や家族・地域が抱える生活課題を理解し、支援のための活動を当事者や支援団体から学び、体験や交流を通し、ボランティア活動への関心や動機づけに繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・華頂高等学校1学年全員に、国規定の講座を通じ、一定の認知症理解に向けた取り組みが出来た。グループワークを通じ、生徒のほとんどが高齢者と同居していないことが理解できた。 ・レポートから、講義を通し認知症を身近な課題として受け止め、具体的に離れて住む祖父母・隣人の行動・普段のニュースに繋げ理解出来ていることがレポートにて確認できた。 ・講座の中で、当協会にて取り組んできた「みんなの認知症予防ゲーム」が今回の講座のプログラムの中に取り入れることが出来た。講座修了者がこの講師として実践機会が得られ 生徒の反応も良く、貴重な場で活かすことが出来た。ボランティアだけの講師だけではなく、専門職の講師も迎え、充実した内容となった。 <p>(2016年度と同様のカリキュラムで実行した)</p>

<p>高齢者・障がい者・こども分野講座実施</p>	<p>・各領域で求められるボランティア像を知り、実践や体験活動を取り入れ、人材発掘の機会の増加。 ・各領域の課題を学び、ボランティアグループ、NPO団体との連携の推進。 ・「心の栄養支援養成講座」連続シリーズ継続+障害編の継続。</p> <p>※東京都では「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」として、研修が始まっています。 因みに研修期間 30年6月～31年3月までの全15回(40時間)</p>	<p>・ボランティア活動にあたって知識・技術を身につける講座・研修を開催する。</p> <p>・各領域の現場で当面している課題を現場から学ぶ。</p> <p>・ボランティア研鑽とボランティア同士の交流、特に福祉領域のボランティア活動者の敷居を低くし、互いに支えあう活動を増やす。</p> <p>・地域生活で求められているボランティアを知る機会をつくる。</p> <p>・在宅生活を豊かにすることをお手伝いできるボランティアを知り、実践や体験活動を取り入れた内容の講座づくりをする。</p>	<p>・公開講座「介護・福祉事業所と地域とのつながり～総合事業を踏まえて～」 1. 基調講演 理事長の岡本民夫『我が事・丸ごと』地域共生一逆ピラミット型社会の担い手と受け手』 2. シンポジウム ☆社会福祉法人 同和園 ☆マイクロ株式会社 グループホームまごころ城陽 ☆一般財団法人 宇治市福祉サービス公社 ☆その他介護事業所より事例の報告。 発表された事業所の内容は先進的であり、充実していると感じ取れた。人と人をつなげることで、実際に動いていく縁が確かにある。事業所の特色ある策がよりカラフルになるように事例の情報共有がより大きな範囲でできればという感想があった。</p> <p>・高齢者・障害者分野の研修は、「心の栄養支援ボランティア養成講座」の4年目を迎え、連続シリーズ高齢者福祉・障害福祉に特化して回数を重ねてきた。講座の目的は、ボランティア活動の推進および参加を期待している。6回開催され毎回10数人の参加者。アンケートによれば内容的には良かったという意見があり、参加人数はあまり増えず、広報に工夫が必要であると思う。</p> <p>連続4年間、取り組んできた「失語症」「みんなの認知症予防ゲーム」の参加者の中の、修了者が講師サポーターとしての実践の機会を得た。ボランティアリーダー養成の修了者を施設や居場所で活動できるボランティアを養成することが目的である。「失語症の講座」は、ワタキューグループ新入社員研修にもサポーターの参加があった。</p> <p>高次脳機能障害の講座も昨年に引き継ぎ～注意障害記憶障害・遂行機能障害について～実施。失語症サポーターの制度化に関心が有り情報に注意していきたい。</p>
<p>ワタキューグループ新入社員研修(5/9～5/23)福祉施設ボランティア体験講座の企画・講師派遣7回目</p>	<p>・ボランティア精神を学び、座学や体験活動を通じての「人間力」育成。 ・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。</p>	<p>・ボランティア活動の意義を知り、実際に体験活動を通じて現場の職員や当事者と接する機会を通じて交流する。</p> <p>・社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)する。 ・ボランティア活動や講座の情報提供を発信する。</p>	<p>・第7回目となる新入社員研修であり、当事者の参加を希望されているが当日の体調など難しい点が多い。</p> <p>・受入先施設からは、精神障がい基礎知識は座学の時間に障害についての体験も交えた講座を行い、好評を得る事が出来た。が、目に見えない障害の分野は難しい。社員の皆さんの反応は皆何かを得て、感じられて戻られ有意義であったと異口同音に。</p> <p>「ボランティア」を研修に取り入れた効果をアンケートを活用し教育現場・他企業にも発信し、ボランティアの普遍的な意義をアピールしていく必要性を感じた。</p> <p>7年継続したワタキューグループの「ボランティア講座」は、効果は「大人になった」「定職率が高くなった」と企業の担当者からのメッセージがあった。</p>

史跡ガイドなどのガイド派遣	2017年度は福祉史跡のガイド依頼がなかった。福祉史跡ガイドの冊子が通算14冊売上。2017年度計画中、次年度に回す。
---------------	---

【5. 研究事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
<p>①京都市マーケット回収事業</p> <p>※高齢者と社会的に不安を抱く若者とつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)</p>	<p>①手軽に出来るボランティア、だれでも出来るエコ・リサイクル活動である京都市マーケット回収事業の継続。</p> <p>・地域住民に社会貢献活動の啓発や就労支援の活動(障がい者とともに)として研究課題(京都市の助成金交付対象)。</p> <p>②ボランティアビューローのサロン事業の活動(認知症やひきこもりなどの予防等)。</p>	<p>①京都市マーケット回収(ゴミ減量推進活動) 京都市では、「ごみ量をピーク時の半以下まで減らす」という目標を掲げている。 古紙・古着等は、地域の集団回収(コミュニティ回収)を奨励している。減量・リサイクルの推進が特に重要な課題となっている。</p> <p>②地域の高齢者や障害者が手軽に来れるサロン(例:趣味・お話相手等)で認知症やひきこもりなどの予防を図る。</p>	<p>①地域住民の協力を得ながらリサイクルの活動が定着してきた。地域ボランティアをはじめ未就労な若者が事業に参加することにより社会とのつながりをつくり、お互いに協力・工夫しながら、この活動が続けられている。この事業5年目に入り、社会的資源を有効利用し老若男女の共同作業が見られてきた。</p> <p>②高齢者と社会的に不安を抱く若者とつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業) 毎年、祭りでは生きづらい若者達が作る作品の展示会を開催した。祭りやコンサートにも参加し、社会とのつながりを大切にし、少しずつ将来の生活に生かせるように応援していきたい。 京都市ゴミ減量推進課 276千円助成 ウェス生産高107千円(大徳寺分室生産含)</p> <p>・この事業は、若者たちが交流することで自立出来るように支援している。高齢者と交流することで、お互いさまのこころを育て社会に一步でもステップできるように目指している。</p> <p>・メンタルな若者は、大勢いる人の中は苦手である。出来るだけイベントに参加してたくさんの人とふれあい・つなげる(交流)機会をつくるようにする。</p> <p>・経験豊富な高齢のボランティア(ウエスグループ)の支援が不可欠である。交流イベントや京都市マーケット回収や若者ウェス作業に常にボランティアスタッフが寄り添い応援している。</p> <p>・この事業は丸4年、ウェス作業や各イベントに参加した若者もアルバイトや就業支援A型、B型に通えるようになってきた。彼らにとって、居場所づくりは不可欠である。</p>
ボランティアコーディネートに関する調査	<p>・ボランティア活動の啓発と推進。</p> <p>・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流等。(社会貢献活動) ([1. ボランティアコーディネート事業])の再掲</p>	<p>・当協会のコーディネートの範囲が広いため、各分野の検討を行う。</p>	

【6. 地域福祉推進事業】			
事業項目	事業目的	事業内容	成果
災害支援活動	人的支援・物的支援等の後方支援。	・募金活動を行う。 ・事業開催時に募金箱を設置する。	・一般市民への協会活動の広報・啓発機会にふれ、地道な活動を行う。

【7. 評価・調査事業を通じ社会福祉を推進する事業】			
事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題・改善策
地域密着型外部評価事業の充実	・質の高い評価。	・評価員の研修体制の充実にを図る。 ・評価員の高齢化に伴い、若手調査員の導入を図る。登録は現在20名である。	・昨年度は、36事業所の調査を実施したが、今年度(平成29年度)は、31事業所の調査を実施。緩和措置を含め5事業所の減。 今後に向けて、アンテナをはり、新規事業所へのアプローチ活動を強化していく。又、過去調査を実施した事業所へのアプローチを行っていく。 (開設する事業所の情報を早くキャッチしてアプローチに努めると同時に過去の受審調査機関及び受審回数推移などを見極めてシェアアップを図る。) ・外部評価事業の事業内容の見極めが必要。(色んな事業を手掛けている事業所の情報確保する事によるシェアアップ。) ・主任調査員(現在5名)の育成が急務である。また調査員の高齢化対策も今後の課題である。 ・多数の事業所を運営する法人・企業に対して協会関係者が一体となって受審の獲得を目指す。 企画運営委員会で協会独自の研修を強化し、受講を義務化、必須とする。
介護サービス第三者評価事業の充実	・質の高い評価。	・評価員の研修体制の充実にを図る。 29年度新人養成研修 1名受講。	平成29年度の第三者評価調査実績は、20事業所で昨年と比較して約70%であった。(平成28年度は、29事業所の調査実施。) 今年度の最終結果ではないが、2月23日に実施されたネットワーク会議での府社協からの情報によると、受診事業所は、平成29年度は前年と比較し約20%減。第三者評価調査においては、介護サービスは、昨年度とほぼ同じ調査数でしたが、福祉サービスが減少した。 この第三者評価の受診の落ち込み、特に福祉系のマイナスが大きな要因である。

福祉サービス第三者評価事業の充実	・質の高い評価。	・評価員の研修体制の充実を図る。	
評価・調査事業の管理・運営体制の整備	・効率的な事務運営	・評価・調査機関としての事務体制を整備する。	評価・調査事業は、公益事業を支える事業である。評価事業だけでなく、ほかの収益事業も開拓しなければならない。

【8. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
企業・労働組合の協働と交流	・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。	①協会事業(祭等)への参加および企画等への参画を図る。 ②社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会を提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)する。 ③ボランティア活動や講座の情報を提供する。	第9回「きょうボラふれあい祭」が開催されたが、昨年2016年度が休止になると企業担当者も変わり、社会人のボランティア活動の参加が少なくなった。(モチベーションが下がった)
災害支援活動			イベント及びボランティアビューローで募金箱設置。

<組織・運営>

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	事業目的	事業内容	成果
組織基盤の強化	・会員増員・確保に取組み組織基盤の強化。 (賛助会員の拡大)	①会員拡大委員会の設置を検討する。 ②イベント等参加団体・者への会員案内・勧誘を行う。	①会員の高齢化もあり、年々会員が減少している。会員数202人、11団体。2017年度 入会者11人、退会者23人+2団体。会員拡大委員会の内容及び設置についての再検討が必要である。 ②イベント等で団体・グループ・会員案内を配布した。会員から会員への口コミの効果が大きいのではないかと考えられる。会員の声掛けは、事務局からイベントごとに発信しているが声掛けが一番効果がある。

		<p>③各新聞社・関係団体の広報媒体を活用する。</p> <p>④理事、会員との交流の機会を設ける。</p>	<p>③京都市福祉ボランティアセンター(ボランティアーズ)・福祉情報ネット・新聞社・関係団体の広報媒体を活用した。イベント・講座案内など京都新聞社会福祉事業団に連続掲載を更新した。</p> <p>④「第9回きょうボラふれあい祭」での理事の出席は4人。実行委員会や振り返りの会など、行事にはできる限り出席を望みたい。</p>
<p>運営体制の整備</p>	<p>・ボランティアと協調しつつ、迅速効率的な事務執行体制を築き、運営体制の整備。</p>	<p>①一般社団法人移行後の公益事業の活性化を図る。</p> <p>②事務局体制の整備(人員の補強)を図る。</p> <p>③理事、ボランティアスタッフ、事務局員との連携強化を図る。</p> <p>④ボランティアスタッフ研修会を実施する。</p>	<p>①一般社団法人化認定を受けて5年経過、公益目的支出計画書を毎年提出が義務付けられている。 公益目的財産支出計画によると5年間で842万円を支出しなければならない。(延長する場合は、京都府に再申請※公益目的支出計画実施報告書参照)</p> <p>2017年は公益目的支出635万円の支出があった。人件費が退職に伴い増加したが、労働局に助成金(40万円)を取得。 公益目的財産を支出しながら、収益事業の利益を協会の財産として(運営費)確保することが重要である。 公益事業の進展を図り、新事業の開発が不可欠である。</p> <p>②公益事業及び収益事業の事業経費より人件費、調査人件費が主に占めている→主な経費となっている。 公益事業の印刷費・通信費などは京都市福祉ボランティアセンターが負担している。 会員の中からボランティア事務局スタッフを採用し、長時間のボランティアビューローの管理にご協力を頂いた。 財政の安定化を図り、事業方針を確定し、事業の充実を図ることが重要であると同時に、事務のコストダウン・効率化をはかることが必要である。 但、(パート職員を含む)事務局員が、2016年度末の4人から3人に減少しており、また、最低賃金も上昇(過去3年で100円アップ)したことから、対策が必要と思われる。</p> <p>③理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流の場が得られなかった。</p> <p>④「心の栄養支援ボランティア養成講座」の開催の情報など広くボランティア・一般の方に情報機関(新聞など)で広報している。</p>

		⑤評価事業の管理・運営体制を整備する。	⑤継続のボランティアスタッフのボランティア保険の費用は、協会負担としている。(2018年対象ボランティア継続80人26千円) 2018年度から「わの会・京都」(旧りすの会)が当協会のボランティアグループとなり会員増加。ボラ基クラブやパソコングループにも会員入会のお願いをした。
ボランティアビューロー・3階のボランティアセンターの一部の管理・運営	・有効な管理運営及び友好的で開放的な場の構築。	①利用状況を把握・管理する。 ②広報物を掲示・整理する。 ③ボランティアビューロー活性化事業を促進する。	・りすの会・お誕生日ありがとう運動京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻繁に利用されている。 当協会事業(ねこのてさろん・ボランタス等発送業務・評価事業の審査会や企画運営委員会等)も利用している。 他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。 2017年度利用者人数:のべ3,308人(2016年度は3,252人で増員原因は祭を再開したため) ・広報物の展示の呼びかけをし、整理を心がけている。 ・ボランティアビューローの開室時間が、午前9時から午後9時半(12時間半)の長時間に及ぶため、会員の中から、2017年度もボランティア事務局スタッフを依頼し、主に、ボランティアビューローの管理やイベント時などのお手伝いをお願いしている。 京都市福祉ボランティアセンターの夜間業務のパート職員は、ボランティアセンターの業務以外にも協会事務局の庶務作業も担っている。 ②広報物の展示の呼びかけを行い、また、整理を心がけている。 ③りすの会・お誕生日ありがとう運動京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻繁に利用され、当協会事業(ねこのてさろん・ボランタス等発送業務・評価事業の審査会や企画運営委員会等)も利用しているが、他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。(再掲)
財源の確保	・財源確保による安定的事業運営。	①助成金を確保する。 ②ボランティア団体賠償保険の加入勧誘を行う。	①京都府共同募金会、京都新聞社会福祉事業団、国際ソロプチミスト京都、会員、一般等からの寄付。 ②他の団体・グループにも声をかけ、交流の場を設け、万一事故があった場合に備え、加入勧誘を進める。

寄付者名(敬称略) 一般寄付

大矢治世	はぐくみ募金 ビューロー
上田充子	かみふうせん
小谷節子	りすの会
岩佐敏子	嶽山好男
下秋紀美子	林順子
岡本 民夫	内藤雅子
宇理須典子	中村都子
阿部秀樹	村上保子
ランニングin東京	深谷喜代子
ボラ基クラブ	松井恵美子
ピアサポーター 連絡会	
はぐくみ募金(大徳寺分室)	

指定寄付

京都府共同募金会
 幸せの黄色いレシートキャンペーン
 京都新聞社会福祉事業団

松井三千
 山本賢治
 公文茂人
 間哲朗
 鎌田松代
 花園道心太鼓
 安田行雄
 丸清木材(株)
 中澤久仁子
 京都生命保険協会 京都府会
 国際ソロプチミスト京都
 匿名2名₃